サイドコアの展覧会で生まれた動き

アートの現場から ACAC通信

青森公立大学国際芸術センター青森（ACAC）では、4月24日からSIDE CORE（サイドコア）による、匿名アーティストグループEVERYDAY HOLIDAY SQUAD（エブリデイ・ホリデイ・スクワッド）の個展「under pressure（アンダープレッシャー）」が始まりました。サイドコアは日本のストリートアートを起点に作品制作や展覧会の企画などを行うアートコレクティブ（集団）で、メンバーはそれぞれ個人のアーティストやキュレーター、映像ディレクターとしても活躍しています。ストリートから拡大して公共事業や土木工事に対しても強い関心をもち、今回青森では青函トンネルと竜飛岬のリサーチを敢行しました。本展ではACACのギャラリーをトンネルに見立て、風が出る箱を積み上げて換気を行う高さ5㍍超の巨大な彫刻作品《タワーリング・ウィンド》3点を中心に、新型コロナウイルス感染症の影響を受け続けている現況を反映した作品群を発表しています。それぞれの作品では、メンテナンスをされなくなった人工物と自然の関係、彼らの拠点である東京と東北地方のつながりや近代化、風景に所在する人為の痕跡など、多様な視点から世界に対しての問いが提示されています。

サイドコアとエブリデイ・ホリデイ・スクワッドのメンバーは4月上旬からACACに滞在し、リサーチで温めてきたテーマやプランを実現させるべく約3週間制作に集中しました。滞在アーティストの活動をサポートするAIRS（エアーズ）はじめ、青森公立大学や美術系大学に通う学生、これまでサイドコアが企画する展覧会に参加してきたアーティストなどがボランティアとして作品制作に参加。青森公立大学の学生ボランティアには木工や絵を描くことに興味を持つ人が多いことが分かり、展覧会オープン後に創作棟の片付けと清掃を行った後、サイドコアの松下徹による絵画用キャンバス制作ワークショップが行われました。有名アーティストの影響を受けた本格的なキャンバスの作り方を学び、どのような絵を描くか考えながら自分のキャンバスを熱心に作成する姿が印象的でした。

学生向けに行われたキャンバス作りワークショップの様子

公式イベントとしては4月24日にオープニングトーク、翌25日夕方からは「ナイトウォークツアー」という、街に所在するストリートアートや様々な人々の痕跡をひろく「表現」として捉え、サイドコアの視点で街の新しい見方を開拓する街歩きイベントを東京で収録した映像作品の上映会、5月1日には青森バージョンのナイトウォークを行い、青森駅から徒歩圏内に所在する落書きや壁画、建築の解説、トマソン（不動産に付属している無用の長物）など、青森在住者でも気づかなかった街の隙間を見つけ出し参加者と時間を共有しました。

本展は6月27日まで。最終日には、美術評論家の椹木野衣氏をゲストにトークイベントも実施予定です。

（青森公立大学国際芸術センター青森学芸員　慶野結香）

※第1金曜日掲載。今回は都合により変更しました